

与党幹事長・国対委員長会談後の
自民・森山（衆）国対委員長、公明・高木（衆）国対委員長
会見概要

○森山国対委員長から

二幹二国を13：30から開いた。本日の二幹二国の中でいくつか合意できたことがあるのでお知らせする。来週から法案審議が始まるが、野党のご理解もいただきながら、来週から法案の審議に入れることは大変ありがたいこと。野党の理解にも感謝したいというのが二幹二国の合意と言うか、考え方。次に第三次補正やそろそろ総理の方からご指示があるのではないかと推測しているところであるが、第三次補正については、やはり1つめの柱としては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策をしっかりとやるということが大事だと。もう1つはポストコロナに向けた経済構造の転換をどう進めていくかということも1つの柱だと。また、3年間、3カ年計画で進めてきた防災減災国土強靱化の事業だが、全国知事会をはじめ地方6団体からも国土強靱化のために安全確保のためにこの事業を引き続き続けて欲しいという強い要望が寄せられているので、防災減災国土強靱化の推進5カ年計画を定めてスタートすべきではないかということで合意した。3カ年で進めて参った事業だが、まだ国土強靱化のために予算措置をしなければならないところもたくさんあるので、5カ年くらいの計画がいいのではないかということ。今申し上げた3点が第三次補正に向けての対応として考えていただきたいということ。

<Q&A>

Q：補正予算の規模は。

A：予算は積み上げのため、今申し上げたような事業のほかに必要な事業があるかもしれないが、そういうものを積み上げていって金額というものは示されるのだろうと思う。

Q：具体的にどういった事業が必要だと。

A：雇用についても新しい仕事の分野を作っていかなければならないこともあるかもしれない。そういうところへの配慮とかということも考えなければならぬのではないかということ。

Q：補正の編成時期は。

A：補正はできるだけ早くやらなければならないと思う。基本的には15か月予算という考え方になろうかと思う。補正があつて当初とどう組み合わせっていくかということだと思う。

Q：15か月予算ということだが、3本柱は当初予算もその方針でいくのか。

A：当初予算についてはまだ議論していないが、3本柱で限定しているわけではない。その3つの項目は大事だと。柱となり得るのではないかということ。

～次頁へ続く～

Q：野党が予算委員会の集中を求めているが受け止めは。

A：野党から強く要望があることはその通り。今後の国会の運営を見ながら判断をしていく。

Q：アメリカの大統領選に絡んで総理の訪米について話題になったか。

A：本日その話はなかった。

Q：都構想の住民投票の話はあったか。

A：ない。

Q：新しい仕事の分野と言ったが、雇用調整金とは別に新しい対応をとということか。

A：雇用調整助成金の使い方というのは、今の仕事を続けておられる方が多いが、それだけではなくて新しい分野の仕事を求められる方に対してももう少し考えていく必要があるのではないかということ。

Q：ポストコロナという話もあったが、これは政府が進めているデジタル化の関連等も含まれるのか。

A：もちろんそれも含まれる。デジタル化はもちろん進めなければならぬ。経済構造の転換という表現のところにまきに入っていると。

Q：省庁ヒアリングについて話題になったか

A：本日はなかった。少し動きを見ておく必要があると思う。

○高木国対委員長から

来週から法案審議が入る。必ず会期内に成立させる。三次補正については、コロナ対策、ポストコロナに向けた経済構造改革、防災減災国土強靱化5ヶ年計画のスタートにしたということを確認した。本日の議運で来週火曜に本会議が立つことが決まった。予防接種法の審議に入る。経済構造改革に向けて様々な課題がある。困窮を極めている人たちを見極めて取り組んでいく。防災減災国土強靱化計画は、地方6団体より、3ヶ年計画の延長の要望があったので、もう少し長い中期の計画をやったらどうかと確認した。

<Q&A>

Q：第三次補正予算の規模感や、時期については。

A：規模はまだ。総理の指示が出てないから、その前にその柱を与党として確認をした。時期もまだ。

Q：これまでの予算委での総理の答弁をめぐっての話は。

A：特になかった。しっかり予算委で答弁しているという認識。

Q：第三次補正予算のポストコロナ経済構造改革は、重点的には、困窮者対策ということか。

A：それが一番大きな柱。一番影響が出ているところを見極めていきたい。二幹二国は大きな方向性を確認するもの、具体的なパッケージは政調が決める。

Q：大阪都構想の話は、

A：ない。

Q：大統領選については。

A：なかなかわからないね。という話になった。昨日はトランプ大統領が優勢だったみたいだからね。

～ 以 上 ～